

腋窩に発生した Solid-cystic hidradenoma の一症例

奈良県立医科大学附属がんセンター腫瘍病理学教室

小林 永 策, 辻 内 俊 文, 堤 雅 弘
遠 藤 武 弘, 堀 口 浩 資, 小 西 陽 一

奈良県立医科大学皮膚科学教室

白 井 利 彦

大和高田市立病院外科

西 嶋 義 信

A CASE OF SOLID-CYSTIC HIDRADENOMA OCCURRING ON THE AXILLA

EISAKU KOBAYASHI, TOSHIFUMI TSUJIUCHI, MASAHIRO TSUTSUMI,
TAKEHIRO ENDO, KOSUKE HORIGUCHI and YOICHI KONISHI
Department of Oncological Pathology, Cancer Center, Nara Medical University

TOSHIHIKO SHIRAI

Department of Dermatology, Nara Medical University

YOSHINOBU NISHIJIMA

Department of Surgery, Yamatotakada City Hospital

Received April 14, 1993

Summary : A case of solid-cystic hidradenoma occurring on the left axilla of an 11-year-old girl is reported.

The tumor was hemispherical, covered with normal skin, and movable to the underlying tissue. Histopathologically the tumor was revealed to be localized in subcutaneous fat tissue and surrounded with thin fibrous connective tissue. The tumor cells consisted of epidermoid cells and clear cells, although the former were dominant. Many tubular structures containing colloidal substance were observed within the tumor.

Index Terms

hidradenoma, axilla

はじめに

Solid-cystic hidradenoma は 1968 年に Winkelmann¹⁾ によって提唱された皮膚良性腫瘍である。本症は青年期以降の女性に多く、特に軀幹、顔面、四肢などに好発し、発育は緩慢である²⁾。肉眼的には充実性部分と囊腫

性部分とから成り立ち、組織学的には epidermoid cell と clear cell の細胞成分と、大小の管腔構造および囊腫構造の両者から構成されている。今回我々は、左腋窩部に発生した稀な本腫瘍の一例を経験したので報告する。

症 例

症例：11歳，女性

主訴：左腋窩部腫瘍

既往歴：特になし

現病歴：1992年11月上旬，本人が左腋窩部の無痛性腫瘍に気づき，大和高田市病院外科を受診した。

受診的現症：左腋窩部に結節状に隆起した可動性で弾性軟の円形腫瘍を認めた。

手術所見：局麻下で左腋窩部腫瘍切除術を施行した。腫瘍は皮下に局在し，色調は薄青色，大きさは直径約3cmで弾力性があり，周囲組織との癒着はなかった。

病理組織学的所見：腫瘍は真皮下の脂肪組織内に限局し，境界明瞭な線維性結合組織により取り囲まれた充実性部分と嚢腫性部分とから成り立ち，腫瘍巣と表皮との連絡は認められない(Fig. 1)。腫瘍は，核が濃染シクロマチンに富み，好酸性を示す胞体からなる epidermoid cell が充実性に増殖し，そのなかには散在する多数の大小の管腔構造を認めた。また一部に細胞境界が比較的明瞭な胞体の明るい clear cell が混在していた(Fig. 2)。

考 察

1968年に Winkelmann ら¹⁾は本疾患を Solid-cystic hidradenoma と呼ぶことを提唱して以来，nodular hidradenoma, clear cell hidradenoma²⁾, eccrine sweat gland adenoma of the clear cell type³⁾, eccrine acrospiroma⁴⁾などの種々の名称を同義語として報告されてきた。本腫瘍は通常は単発性の皮下結節で，広範囲の年齢層にわたってみられるが，特に青年期以降の女性に好発する。発育は比較的緩徐であり，数年の経過をたどることが多く，自覚症状を伴わないため発症からの期間は1～5年の例が最も多い⁵⁾。好発部位は軀幹，顔面，下肢，次いで頭部，上肢の順に多いが，本症例は腋窩部発症例と極めて稀である。大きさは数mmから数cmまでに及ぶものもあり⁶⁾，表面正常皮膚に覆われた皮下結節で，結節状に隆起する。表面は暗赤色調を示すことや毛細血管拡張，痂皮を伴ったり，潰瘍や肉芽腫様外観をとるものもある⁷⁾。

組織学的には，本腫瘍は周囲との境界は比較的明瞭で円形ないし卵円形を呈し，真皮内に存在することが多く，皮下組織，筋層にまで達することもある。腫瘍細胞は epidermoid cell type と clear cell type の2種類の細胞から成ることが特徴的であるが，これらの中間型や移行型も認められる²⁾⁷⁾⁹⁾。またこれら epidermoid cell と clear cell などの特徴によって上述した種々の名称で呼



Fig. 1. Microscopic whole cut view of the tumor in the region of the axilla. (H&E)

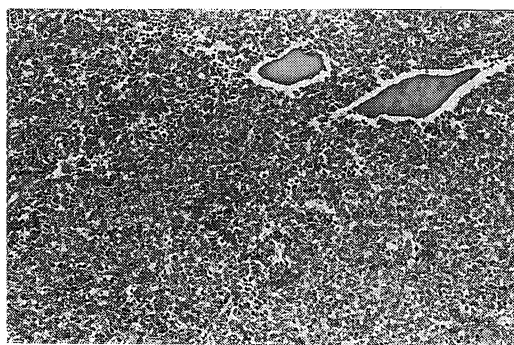


Fig. 2. Tumor consisted of epidermoid cells and clear cells. (H&E)

ばれてきた。

本腫瘍の起源，発生に関してはエクリン汗腺系の腫瘍であることがほぼ確定されている⁹⁾が，エクリン汗腺系の分泌腺部，真皮内汗管，表皮内汗管のいずれの部位に相当するものであるかについては結論が得られていない¹¹⁾。O' Hara ら⁴⁾¹¹⁾や Winkelmann ら¹⁾は，電顕所見や酵素組織化学的所見から本腫瘍の起源・発生をエクリン分泌腺部の clear cell に注目している。一方，Hashimoto ら¹²⁾は，本腫瘍をエクリン汗器官の表皮内および真皮内汗管から分泌腺部にまで広範囲にわたり分化傾向を呈する suborganoid tumor であろうと考えている⁹⁾¹⁰⁾。また，森岡・三島¹³⁾の分類では，本腫瘍をエクリン真皮内汗管の epithelioma，即ち eccrine ductoepithelioma の clear cell type としている。Kersting, D.⁴⁾によれば本腫瘍の分化傾向は，主に表皮内汗管であろうと考えている。

このように，本腫瘍がエクリン汗腺系の分化能の比較的低い良性腫瘍であるという点においては共通の見解をみるが，エクリン汗器官のいずれの部位に由来し，また分化するものであるかについては意見の一致がみられず，

より一層の検索が期待される。

結 語

我々は、11歳、女性の左腋窩部に可動性で弾性軟の結節状円形腫瘤の solid-cystic hidradenoma の一例を経験した。本腫瘍は軀幹、顔面、下肢などに好発する皮膚良性腫瘍であるが、自験例は腋窩部に発生したという稀な一例を経験したので報告した。

文 献

- 1) Winkelmann, R. K. and Wolff, K. : Solid cystic hidradenoma. Arch. Dermatol. **97** : 651, 1968.
- 2) 生富公明, 植原八重子, 加茂紘一郎 : 手掌に発生した Clear cell hidradenoma の1例. 臨皮. **31** : 987-992, 1977.
- 3) Kersting, D. W. : Clear cell hidradenoma. Arch. Dermatol. **87** : 323, 1963.
- 4) O, Hara, B. W. : Eccrine sweat gland adenoma of clear cell type. Cancer **19** : 1438, 1966.
- 5) Johnson, B. L. : Eccrine acrospiroma. Cancer **23** : 641, 1969.
- 6) 青柳 俊, 水元俊裕, 浜本淳二 : Clear cell hidradenoma (eccrine duct epithelioma). 皮臨. **14** : 481-488, 1972.
- 7) 坂口知香子, 小川 豊, 野添恒幹 : solid cystic hidradenoma の1症例. 倉敷中央病院年報 **56** : 45-48, 1968.
- 8) 三国恒靖, 松本一仁 : 陰囊に発生した明細胞汗腺腫. 臨床泌尿器科 **45** : 424-426, 1991.
- 9) 佐藤俊次, 新井克志, 比留間正太郎, 石橋 明 : 眼瞼に発生した Clear cell hidradenoma の一例. 臨皮. **39** : 1067, 1985.
- 10) 斎田俊明, 田久保海誉, 土屋真一 : Clear Cell Hidradenoma. 臨皮. **35** : 87-92, 1981.
- 11) O' Hara, J. M. and Bensch, K. G. : Fine structure of eccrine sweat gland adenoma, clear cell type. J. Invest. Dermatol. **49** : 261-272, 1967.
- 12) Hashimoto, K., DiBella, R. J. and Lever, W. F. : Clear cell hidradenoma histological histochemical, and electron microscopic studies. Arch. Dermatol. **96** : 18-38, 1967.
- 13) 森岡貞雄, 三島 豊 : 真皮内エックリン汗管及び汗腺の腫瘍化分化. 良性表皮腫性並びに癌性腫瘍. 日皮会誌. **78** : 357, 1968.